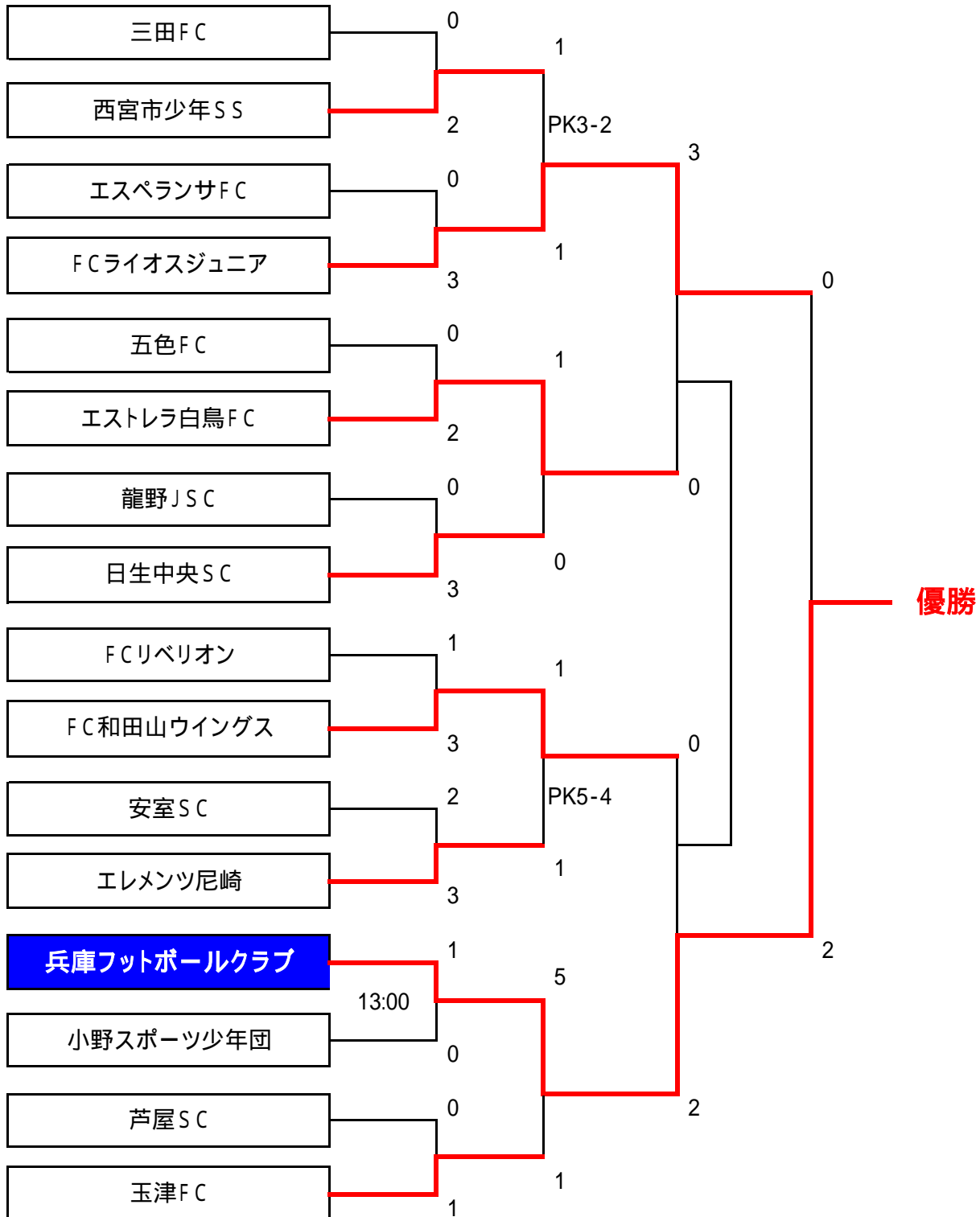


第33回全日本少年サッカー大会 兵庫県大会  
芦屋市総合運動公園

6月13日(土)～14日(日)



第33回全日本少年サッカー大会は、8月1日(土)～8日(土) 福島県のJFAビレッジで行われます。

詳細については、後日ご連絡します。

## 試合結果

### 1回戦

兵庫FC 1 - 0 小野スポーツ少年団 得点 本條→ 森山

### 2回戦

兵庫FC 5 - 1 玉津FC 得点 工藤→ 米谷

木村→ 森山

森山→ 米谷

森山→ 本條

谷口→ 本條

### 準決勝

兵庫FC 2 - 0 FC和田山 得点 森山→ 米谷

### 決勝

兵庫FC 2 - 0 FCライオス 得点 本條→ 森山

本條→ 杉浦

昨年冬の合宿から、チームとしての指導方針を全面的に見直し、再出発したボーイズ。  
その結果として、3月の県大会優勝。3ヶ月間、走り続けた子どもたちの疲労はピークに達していた。  
毎年行われる春の合宿をなくし、4月の招待大会は、勝利を求めないのんびりした雰囲気消化し、  
心と体の疲労の回復に努めた。  
春の合宿で行っていた、チーム戦術ができていないため、全国大会予選での勝利のめどが立たない。  
しかし、コンディションがよくなれば必ずやってくれるという、根拠のない自信。  
4月から就任した、堀江コーチともども、不安な日々を過ごした。

5月のゴールデンウィークから徐々にあげていこうと話していたが、経験のないチーム作り。  
4年時の県大会優勝・5年生でも県大会優勝という事実があっても、6年生で優勝するという保証はない。

東播予選は、胃の痛みをこらえて乗り切った。

全日本予選は、格別の緊張感がある。「V3を達成して全国に行くぞ！」目標を口にする子どもたち。  
1回戦から、普段の兵庫FCらしさはない。連動しない動き。ドリブルで仕掛ける場面も見られない。  
毎試合、システムを変え、選手を替え、相手チームをごまかしながらの安定しない試合。

そんな重苦しい雰囲気を変えてくれる選手が、兵庫FCにはいる。  
バスの中でみんなの気持ちを和めてくれるムードメーカーの工藤君。  
グラウンドの外で大きな声を張り上げて応援してくれる、10名の選手。

28名の選手の間人関係が、優勝への大きな原動力になったことは言うまでもない。  
日々のスクールの練習に真剣に取り組み、努力を続けて子どもたちへの神様のプレゼント。  
タレントのいないチームであるが、目に見えないチーム力という武器を身につけている子どもたち。  
底知れない勝負強さを感じる。

素晴らしい子どもたちに育ててくれている学校の先生・保護者に感謝。

低学年の子どもから、たくさんの保護者の応援が子どもたちに大きな力をくれました。  
神戸市予選のビデオを提供してくれた玉野さん、小野スポーツ少年団のビデオを撮ってくれた新田さん。  
見えないところで身を削ってくれた多くのコーチの努力に感謝。

素晴らしい環境の中で試合を支えてくれた芦屋市サッカー協会の指導者の皆様に感謝。

全国大会に向けて、再度18名の選手選考に入ります。県大会ではベンチ入りできなかった選手の  
奮起を期待します。すべての感情を殺して、戦える集団作りをします。

全国大会という最高の舞台で最高の試合をするために、もう一度、コンディション作りから取り組みます。

忙しい日々を迎えることになりましたが、ご協力をお願いします。